

1. 学会誌等発表論文

- 1) 山口聖・太田洋志・津城啓子・三根崇幸 (2021) : 有明海湾奥高濁度域で観察される冬季珪藻ブルームの消長を制御する物理化学環境. 沿岸海洋研究, 59, 1-10
- 2) Yoshida K, Ota H, Iwanaga T, Yoshitake A, Mine T, Omura M, Kimura K (2023) Species-specific monitoring of *Skeletonema* blooms in the coastal water of Ariake Sound, Japan. Marine Ecology Progress Series, 703, 31-46
- 3) Yamaguchi Soichi, Minamiura Naoya, Koide Shouta, Mine Takayuki, Iwanaga Takuya, Nirei Kenichi, Kishiyama Yousuke (2023) Remote Remote Chlorophyll-A Retrieval in a Turbid Coastal Water with High Anthropogenic Impact by a Fixed-Wing Type Unmanned Aerial Vehicle. Social Science research Network, 59.
- 4) Naoya Minamiura, Soichi Yamaguchi, Takayuki Mine, Takuya Iwanaga (2023) Winter bloom initiation with water column stabilization and improvement of light environment in a turbid shallow coastal water. Journal of Oceanography, Volume 79, 565-579.
- 5) 中村瑠美奈・岩永卓也・中原啓太・住吉大・寺田竜太 (2023) : ノリ養殖採苗日の延期に伴って行われる殻胞子放出抑制処理がカキ殻糸状体の光合成光化学効率に及ぼす影響, 日本水産学会誌, 89 (6), 521-528
- 6) Ryuta Terada, Rumina Nakamura, Takuya Iwanaga, Keita Nakahara, Gregory N Nishihara (2023) . The real-time measurements of PSII photochemical efficiency in the microscopic sporophyte of *Pyropia yezoensis* f. *narawaensis* (Bangiaceae) reveals the low capacity of desiccation tolerance that drops within a few minutes of dehydration . Algal Research, 75, 103283
- 7) 折田 亮・重久剛佑・佃 政則 (2023) : 佐賀県沿岸におけるアゲマキガイの成長と生残 : 性成熟期におけるグリコーゲン含量の推移に着目. 日本水産学会誌, 89 (6) , 529-536

2. 各種雑誌等、書籍

- 1) 野口浩介 (2022) : 来る漁期の生産対策. ノリタイムス第 2435 号
- 2) 野口浩介 (2022) : 令和 3 年度漁期の不作要因. ノリタイムス第 2440 号, 第 2442 号
- 3) 野口浩介 (2023) : 今漁期の問題点と今後の対応. ノリタイムス第 2459 号
- 4) 豊福太樹・川崎北斗 (2024) : チグレインギンチャクを用いたマガキ養殖における付着生物防除技術. 養殖ビジネス 2024 年 2 月号 緑書房 21-25

3. 調査報告書、事業報告書

- 1) 津城啓子、野口浩介、三根崇幸、藤武史行 (2021) : 令和2年度養殖業成長産業化技術開発事業のうち (6) 環境変化に適応したノリ養殖技術の開発 2) 二枚貝の増養殖等によるノリ養殖の高品質化①佐賀県地先有明海における二枚貝増養殖によるノリ養殖の高品質化 報告書. 61-65
- 2) 明田川貴子、野口浩介、三根崇幸、藤武史行 (2022) : 令和3年度養殖業成長産業化技術開発事業のうち (6) 環境変化に適応したノリ養殖技術の開発 報告書 2) 二枚貝の増養殖等によるノリ養殖の高品質化①佐賀県地先有明海における二枚貝増養殖によるノリ養殖の高品質化 報告書. 65-67
- 3) 中原啓太・野口浩介・太田洋志・岩永卓也・藤武史行 (2023) : 令和 4 年度養殖業成長産業化技術開発事業のうち (5) 地球温暖化に適応したノリ養殖技術の開発 報告書 1) 環境に適応した品種の育成とノリ種苗の環境耐性強化技術の開発 ③人為的交配による高水温耐性品種の作出技術の開発 報告書. 15-18
- 4) 中原啓太・野口浩介・永野幸生・木村圭 (2024) : 令和 5 年度養殖業成長産業化技術開発事業のうち (4) 地球温暖化に適応したノリ養殖技術の開発 報告書 1) 環境に適応した品種の育成とノリ種苗の環境耐性強化技術の開発 ③人為的交配による高水温耐性品種の作出技術の開発 報告書. 17-24
- 5) 岩永卓也・太田洋志・森川太郎・三根崇幸 (2021) : 令和 2 年度漁場環境改善推進事業のうち栄養塩、赤潮・貧酸素水塊に対する被害軽減技術等の開発 (2) 赤潮被害防止対策技術の開発 報告書. 166-190

- 6) 岩永卓也・太田洋志・藤武史行・三根崇幸 (2022) : 令和3年度漁場環境改善推進事業のうち栄養塩、赤潮・貧酸素水塊に対する被害軽減技術等の開発 (2) 赤潮被害防止対策技術の開発 報告書. 166-187
- 7) 岩永卓也・太田洋志・野口浩介 (2023) : 令和4年度漁場環境改善推進事業のうち栄養塩、赤潮・貧酸素水塊に対する被害軽減技術等の開発 (2) 赤潮被害防止対策技術の開発 報告書. 163-188
- 8) 太田洋志・岩永卓也・森川太郎・三根崇幸 (2021) : 令和2年度漁場環境改善推進事業のうち栄養塩、赤潮・貧酸素水塊に対する被害軽減技術等の開発 (3) 貧酸素水塊の予察技術、被害軽減手法の開発 報告書. 3-23
- 9) 太田洋志・岩永卓也・藤武史行・三根崇幸 (2022) : 令和3年度漁場環境改善推進事業のうち栄養塩、赤潮・貧酸素水塊に対する被害軽減技術等の開発 (3) 貧酸素水塊の予察技術、被害軽減手法の開発 報告書. 3-20
- 10) 太田洋志・岩永卓也・中原啓太・野口浩介 (2023) : 令和4年度漁場環境改善推進事業のうち栄養塩、赤潮・貧酸素水塊に対する被害軽減技術等の開発 (3) 貧酸素水塊の予察技術、被害軽減手法の開発 報告書. 3-24
- 11) 岩永卓也・中原啓太・山田秀樹・野口浩介 (2024) : 令和5年豊かな漁場環境推進事業のうち海域特性に応じた赤潮・貧酸素水塊、栄養塩類対策推進事業 (1) 赤潮等による漁場被害への対策技術の開発・実証・高度化 報告書. 157-192

4. 学会における口頭発表

- 1) 岩永卓也・吉田和広・太田洋志・山口聖・木村圭・三根崇幸・野口浩介 (9月) : 有明海灣奥部における冬季赤潮原因珪藻 *Skeletonema* 属の周年変動. 日本海洋学会 2022年度秋季大会 (名古屋大学)
- 2) 太田洋志・岩永卓也・山口聖・野口浩介 (9月) : 有明海奥部における *Eucampia zodiacus* の細胞サイズおよび細胞密度の季節変化. 日本海洋学会 2022年度秋季大会 (名古屋大学)
- 3) 岩永卓也・豊福太樹・中原啓太・明日川貴子・太田洋志・山口聖・野口浩介 (9月) : 有明海灣奥部筑後川河口域における *Chaetoceros* 属および *Skeletonema* 属ブルームの終息と海洋構造. 日本海洋学会 2023年度秋季大会 (京都大学)

5. 講演 (一般向け)

- 1) 増田裕二 (2023年6月24日) : ノリ養殖を支える栄養塩の循環. 令和5年度第2回東与賀干潟交流塾 (佐賀市)
- 2) 神崎博幸 (2023年8月4日) 有明海水産資源回復に向けた取組と成果. JF佐賀有明海青年部第14回夏期リーダー研修会 (佐賀市)
- 3) 重久剛佑 (2023年9月14日) 佐賀県におけるアゲマキ資源回復に向けた取組みについて. 第4回二枚貝増養殖研究会 (福岡市)
- 4) 豊福太樹 (2023年9月14日) カキ養殖におけるチグレイトソギンチャクを用いた付着生物防除技術～実用化のための簡易手法の開発～. 第4回二枚貝増養殖研究会 (福岡市)
- 5) 神崎博幸 (2023年10月13日) 有明海水産資源回復に向けた取組と成果. JF佐賀有明海中堅職員研修会 (佐賀市)
- 6) 川崎北斗 (2024年5月13日) : 海況改善に向けたスミノエガキの取組み. 第28回海苔養殖技術検討会 (久留米市)